

生徒の知覚・感受を促す教師の指導言

満島彩香

本来の教科

- 授業を通して、獲得させるべき教科固有の内容・学習行われていることを指す。

音楽の授業の現状

- ただみんなで歌って楽しい、歌って心が一つになったと思い込んでいる授業
- 歌詞の内容をとらえたりイメージしたりして、気持ちを込めて歌うだけの授業
- ただ何となく音楽を聴いて、感想文を書くだけで終わってしまう鑑賞の授業

(中学校・音楽科 新学習指導要領ガイドブックより)

新学習指導要領【共通事項】

1. 「A.表現」「B.鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。
 - ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること。
 - イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。

- 知覚…音楽の要素や要素同士の関連に気づくこと。

- 感受…音楽の要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す雰囲気を感じ取ること。

音楽の授業の本来の姿

(例)

- 2つの楽器の音色の違いを聞き分ける
- 旋律(メロディー)を聴いて、何をイメージするか考える。
- 実際に演奏して音楽を感じ取る。

タイト&ハック 『音楽教育の原理と法則』

- 音楽教育では、ある音楽経験が生徒に意味をもたらす場合に学習が生じる。つまり、個人の思考と感情が音楽的出来事に関係づけられた時に、学習が成立する。

教師の指導言

指導言に注目した理由

- 授業は教師の指導言(発問・指示・説明)なしでは成り立たないから。
- 教師が発問する
 - 生徒が自らの考えを言葉にする
 - 生徒の思考や感情をはっきりとさせることができる。

石井 x 月(1)

授業の実施

	題材	本時の目標	教材
1	日本の歌の良さを味わおう (全2時間中2時間目)	・「浜辺の歌」の歌詞内容を理解することができる。 ・楽曲の特徴を理解し、情景を感じて歌うことができる	「浜辺の歌」 (林古溪 作詞 成田為三 作曲)
2	アカペラの魅力 (全3時間中1時間目)	・アカペラについて理解する。	「Kum ba yah」 (西インド諸島民謡 花岡恵 日本語訳 原由多加 編曲)
3	アカペラの魅力 (全3時間中2時間目)	・曲を正しい音程で合唱する。	
4	アカペラの魅力 (全3時間中3時間目)	・アカペラの響きのよさを感じ取りながら表現する。	

授業の実施

・「浜辺の歌」

生徒に、伴奏形から作曲者の曲に対する想いを想像させることにより、伴奏形が生み出す「浜辺の歌」のよさを感じ取らせる工夫をした。

授業の実施

・「Kum ba yah」

生徒に自分たちの演奏を客観的に聴かせることにより、自分たちの演奏を理想の演奏に近づけるためにどうしたらいいのかを考えさせるような授業を組み立てた。

—発問の内容に関して—

生徒の既知の情報を引き出す発問が多い。

- ・ 作詞者・作曲者の名前などの辞書的意味を尋ねる形式的な知識を問う発問が多くみられた。
- ・ 授業のテンポがよく、生徒も積極的に授業に参加している姿勢がみられた。
- ・ 事前のプログラムに従って淡々と授業が進んでいき、生徒が音楽について深く考える機会が与えられていなかった。

生徒の音楽的な知覚・感受を促す
ことができなかった原因



発問の作り方に問題があるのではないか

発問の分類(大西)

- 「ゆれる発問」
子どもに自由な思考をうながし、いろいろな疑問を生み出させる発問・㍻。
- 「大きな発問」
問題の提示、思考の方向をさし示す役割を持つ発問。
- 「動かない発問」
既有情報の整理をする発問

動かない発問

- 子どもがすでに知っていることを整理するときに有効である。
- 子どもの反応を操作しすぎ、一定のワクに入れこんでしまうことにもなりやすい。

ゆれる発問

「どういう気持ちでこの伴奏にしたんだろう」



生徒: 作曲者の想いを伴奏形から考える



思考がゆれる



様々な意見が出た。

教師の指示・発問で、生徒の音楽的な知覚・感受を促すためには...

生徒自身による、音楽の雰囲気や感情の説明を引き出す指示・発問を心がけるべきである。

テイト&ハック

『音楽教育の原理と法則』

- 言語や言葉は結局、それらを越える生き生きした音楽的事象を概念化して考えたり、分析したり教えたりすることを可能にする本質的な道具なのである。

10775-21

—発問の形式について—
選択肢が限られている発問が多かった。

- 生徒が直接知っている発問が多かった。
- 生徒が考え込むような発問が少なかった。

「浜辺の歌」の授業

「どういう気持ちで作曲者はこの伴奏にしたのか」

- 歌詞に「しのぼるる」ってあって、思い出すときは、静かで、緩やかな感じがいいから。
- 昔のことをしみじみ思い出しているから、温かいメロディにしようかなと思ったから。
- この曲を聴いたら、優しい気持ちになってほしいと思ったから。

考察

筆者の授業の特徴

- 作曲者の名前や記号の意味など、言葉の辞書的意味を説明したり、作詞者は誰かということを確認したりする内容の指導言が多くみられた。

音楽の授業の本来の姿

(例)

- 2つの楽器の音色の違いを聞き分ける
- 旋律(メロディー)を聴いて、何をイメージするか考える。
- 実際に演奏して音楽を感じ取る。

音楽の授業の本来の姿

- 教師がすべきこと

生徒に、音楽の要素や要素同士の関係、音楽の形式を知覚させ、音の響きを「きれいだな」「美しいな」と感じさせる。



生徒の感性を豊かにする。

※授業例(1 : 「浜辺の歌」の授業より

(授業者)みなさん、先週、来てない人もいるかもしれないんですけど、新しい歌を歌いましたよね。浜辺の歌っていうのを。まだ教科書開けなくていいんですけど、作詞作曲、誰がしたか覚えてますか。

(生徒)林古溪

(授業者)おお、すごい。それが?どっち?

(生徒)作詞

(授業者)作詞やね。作曲は誰?作曲は誰でしょう。ながつくけどね。じゃあ、2択で。成田さんか羽田さんか

(生徒)羽田

(授業者)おいしい

(生徒)成田

※授業例(2 : 「浜辺の歌」の授業より

(生徒)襲われそう

(授業者)うんうん。襲われそう、怖いって感じがするよね。で、それを浜辺の歌の伴奏からちょっと考えてほしいのね。で、国語の時間でさ、国語で人の気持ちを考える時ってどこから考える?

(生徒)文型

(授業者)そうそう。文から読み取ってこういう情景なんだろうな、こういう気持ちなんだろうなと思うんだけど、今から、顔の書いてあるところの3番に書いてほしいんだけど、何で、あえて為三さんはこの伴奏にしたんだろうかっていうのを考えてください。どういう気持ちでこの伴奏にしたのかっていうのを。さっきのおだやかとか、色々出たと思うんですけど、もう一度考えてみてください。正解は、為三さんしか知らないんだけど、想像することが大事だから、ちょっと一回考えてみてください。

—2分後—

(授業者)では、途中かもしれないんですけど、こういう気持ちで為三さんはこの伴奏をつけたんじゃないかなっていうのを発表してくれる人いないかな。

おお。Nさん、お願いします。

(生徒)歌詞で、“しのぼる”であって、思い出すときには、静かで緩やかなほうがいいから。

(授業者)はい、ありがとうございます。ここに、“しのぼる”って書いてありますね。出思い出すときは、静かで緩やかなほうがいいからって、Nさん、ありがとうございます。他に言ってくれる人はいませんか。あ、Hさんお願いします。

(生徒)昔のことをしみじみ思い出しているから、温かいメロディにしようかと思ったんじゃないかと思います。

(授業者)温かいメロディにしようかと…はい、ありがとうございます。はい、Tさんお願いします。

(生徒)この曲を聞いたら、優しい気持ちになって欲しいって思ったから

(授業者)聞きました?優しい気持ちになってほしいから、このメロディや伴奏にしたってことですね。